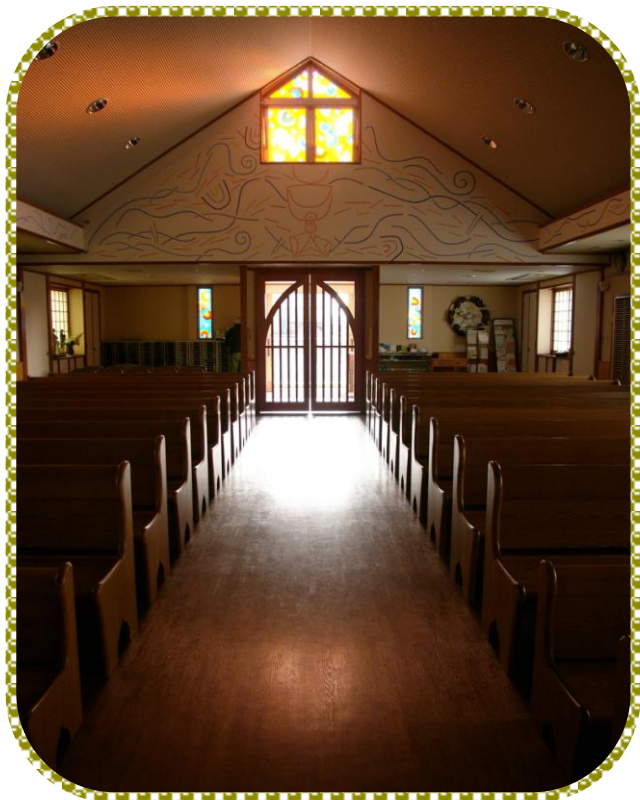


しんきろう ようじん
蜃気楼に用心しよう

6月2日行橋教会で、小教区のふれあい親睦会が行われます。この交わりのひと時に参加するため、多くの方々が都合をつけることを期待しています。



* 教会に集う私たちは「兄弟」であると言われるのですが、当たり前のような人間関係を結ぶために、それなりの努力をしようとしなければ、信仰による関わり合いが成り立つでしょうか。—豊かな交わりの教会作りを目指すために私たち一人ひとりが努力しなければ、「兄弟」という言葉は浜辺に転がっている空になった貝殻のようなものになりかねません。

一果てしなく続く砂漠を歩き続けてきた昔の旅人の話では、強烈な太陽の光に目がくらみ、のどが渇き、その渇きを潤そうと思えば思うほどオアシスの井戸の水のことばかり考えてしまうそうです。このような時、熱せられた地面から昇り揺らぐ霧のようなものの中に、自分の望み通りのオアシスや湖などが目の前に浮かび、まるで本物であるかのような不思議な現象を経験するそうです。この不思議な現象は蜃気楼と呼ばれています。信仰生活や教会共同体の生活においても、時々蜃気楼のようなものは、私たちの歩みにたちはだかっているのではないのでしょうか。

★その蜃気楼とは、イエス・キリストによって救われた者に相応しく、正しく生きるため、教会共同体、「兄弟の共同体」の一員として生きるために「無理しなくても」「それほど努力しなくても良いのでは」と甘えることです。

—テレビや新聞の広告を見ると、商店はしよっちゅう安売り作戦、バーゲンセールを行っているようですが、キリスト者として生きるに当たって値引きや割引を期待することは錯覚を起こすことになってしまいます。

●イエス・キリストの教会は宗教的な百貨店ではありません。

—私たちが信じている神は、確かに憐れみ深く慈しみ深いお方ですが、ごまかしを許す方ではありません。プロの目はブランドと偽物を区別することができるように神は私たちの心を見抜いています。神は愛であるから、何もかも許して下さるかのように思うことは蜃気楼です。神は愛そのものであるからこそ、それに反する思いや行動を認めることができません。思い違いは正当化や自己恩赦への便利な道を開くのですがそれは福音の道ではありません。～都合のいいように自分をなだめすかすこと～この蜃気楼に要注意。



★教会共同体の中で「兄弟」として生きるに当たっても、蜃気楼に注意する必要があるのではないかと思います。イエス・キリストによって、イエス・キリストの内に

私たちは「兄弟」とされましたが、私たちは本当にお互いに兄弟であることを意識し、それなりにふるまうように心がけているでしょうか。

—私たちはいつも「すでに」と「まだ」の間にさまよっています。兄弟になるように努力すること、そのことが常に私たちに求められています。「兄弟」イコール、自分と同じように大切にしている「人」です。そのことに関してフィリピの信徒への手紙の中で次の言葉があります。「同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ思いを一つにしなさい。何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって互いに相手を自分よりも、優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。互いにこのことを心がけなさい。」—“このこと”とはキリスト・イエスを模範にして生きることです。(フィリピ2章、2～5)

—愛すべき、大切にすべき「兄弟」を助け、支え、「兄弟」に心を配り、寄り添い、「兄弟」のために祈り「兄弟」と交わるように努力しようとするれば、私たちの信仰が口先だけのものではないことが証明されます。

*蜃気楼に用心しながら、努力の辛さの向こうに喜びが待っていることに対して、私たちの信仰を確かなものにするように励みましょう。

～6月2日に皆さんをお待ちしています～